

## W33a MAXI/GSC が検出した 2020 年度後半の突発現象 – ミニアウトバーストの検出 –

根來 均, 中島基樹 (日大), 芹野素子 (青学), 三原建弘 (理研), 岩切 渉 (中央大), 安達 稜, 河合誠之 (東工大), 小川翔司 (京大), 中平聡志 (JAXA), 松岡 勝 (理研) 他 MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI/GSC により、2020 年度後半に発見検出した突発現象について報告する。12 月 1 日現在までに新天体の発見はない。9 月 5 日にブラックホール候補天体 MAXI J1348-630 からの 5 もしくは 6 回目の数日続くミニアウトバーストを検出し (Negoro+ ATel 13994)、9 月 25 日には再帰型 X 線新星 RX J1709.5-2639 からの約 3 年ぶりのアウトバーストを検出した (Adachi+ ATel 14047)。10 月 8 日には、MAXI では 2 度目の検出となる、Aql X-1 からの 6 時間以上続くスーパーバーストを検出した (Iwakiri+ ATel 14079)。過去最大級の明るさとなった、ジャイアントアウトバースト中の Be/X 線連星パルサー A 0535+262 の最大光度前のハードネスレシオの変化を捉え、11 月 14 日に ATel に報告した (Nakajima+ ATel 14173)。これら以外に、X 線バーストや恒星フレアなどの 9 件の突発現象を MAXI メーリングリストを通じて速報した。

また、本期間に GRB 200903D (Ogawa+ GCN Circ. 28363) と GRB 201021B (Nakahira+ GCN Circ. 28726) の 2 つのガンマ線バーストを捉えた。これら 2 つの GRB は MAXI のみの検出である。

講演では、これらの突発現象に加え、3 月の講演までに MAXI が発見・検出した突発現象について報告する。また、MAXI J1348-630 以外の MAXI が発見した新天体でも検出されているアウトバースト後のミニアウトバーストの特徴についても報告する。